



2019年5月10日発行
 特定非営利活動法人
 盛岡YMCA
 〒020-0015
 盛岡市本町通3-1-1
 Tel 019-623-1575
 Fax 019-623-1579
 www.moriokaymca.org
 発行人/ 濱塚 有史
 編集/ 本部事務局

YMCA News

5



「また来たい!」

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



新年度が始まり、新しく入ってきた1年生の子どもたちは、学童の生活に慣れ始め素の自分を少しずつ出すようになってきました。前年度からいた子どもたちも、新しく入って来た子どもたちに戸惑いつつも、上の学年として下の学年の子たちと関わっている様子が見られるようになってきました。

そんな中、この時期になると子どもたちから習い事を新たに始めたという話しか聴こえてきます。そして話す時は、どの子もキラキラとした期待に満ちた様子のため、こちらもなんだか自分のことのようにワクワクしている時があります。しかし、数か月後その習い事のこと子ども達から、『楽しくない』『行きたくない』といったネガティブな話も聴こえてきます。

どうしてそうになってしまうのかを子ども達の話から考えてみると子ども達が『やりたい』『してみたい』と考えている活動と実際の活動内容に齟齬が生じ、子ども達の中で『やらされている』活動になっているように思えました。

どうしてこの事をここで書かせていただいたかという、僕の中でこの事は、習い事だけにあてはまるのではなく、学童や他の活動についてもあてはまることだと考えているからです。

そこから僕はYMCAという場所を、今日来た子が『また来たい!』と思い、子ども達1人1人のための居場所にしたいと考えています。

そこで僕は、今年度も子ども達ともに大声でふざけ笑い合い時には、お互いの気持ちや考えを真剣に話したりする中で、多くのことを子ども達1人1人と共有できるよう、日々がむしゅらに子ども達と関わりたいと思います。



盛南センター副センター長 中村 渉

盛岡 YMCA の使命

私たち、盛岡 YMCA は、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。



新入職員紹介



本町センターに新しく仲間入りしたスタッフを紹介します。野澤朋華さんで、リーダー名が魚!これまでのリーダーは個別の魚の名前でしたが、今回はそのすべてを束ねるリーダー名ということで期待が膨らみます。

専門学校を3月に卒業し、ぶらいむ・たいむ本町校を中心に活躍してもらっています。子どもたちと一緒に明るく元気に遊びまわる姿は、子どもたちからも信頼され、魚の周りにはいつも元気な声と、明るい笑顔があふれています。

そして、実はバレーボールの国体選手でもあり、YMCAの学童に通う子どものバレーボールのコーチという側面も持っています。体を動かすことが好きで、子どもが好きという魚がこれから多くの子どもやリーダー、YMCAを支えてくださる方々との出会いの中で、多くの気づきと成長につながってほしいと思いますし、子どもたちやリーダーたちも魚から多くの気づきと成長を与えられたらうれしいなと思います。

本町センターセンター長 浅沼慧

前潟センター長の「たもり」こと東森が、前潟センターに4月から配属された新職員を紹介します。前潟センターのお母さん「川村洋子」さん、リーダー名は「よっちゃん」です。子どもの頃から落ち着きがなくて元気だったというよっちゃんは、学童の子どもたちと毎日近くの公園で遊んでいます。子どもたちもよっちゃんを学童で見かけるとすぐさま「よっちゃん! 外行こう!!」「よっちゃん、下(1階のプレイルーム)行こう!」と言われるくらい子どもたちから見てもアクティブな方なのです。

そんなよっちゃんの趣味はというと「スキー」と「登山」。なぜスキーと登山にハマったかというと・・・山育ちだからとのこと。(笑)よっちゃんは幼い頃から山と自然に囲まれながら育ち、大人になっても大自然が遊び場となっているようです。

特技はというと・・・「健康なこと!」その特技をどう生かすかと聞いたところ、「長生きすること。」だそうです。大事なことですよね。健康に気をつかえるということは、普段の生活がきちんとしているということですよ。学童でも子どもたちへお片付けの指南役を担っています。最後によっちゃんから一言。「生活感全開で日々の仕事に取り組みます!よろしく願いいたします。」

以上、前潟センター新職員「よっちゃん」の紹介でした。

前潟センター長 東森 聡



こんにちは。「さる」こと小川です。私からは、新入職員菅原歩さんを紹介します。菅原さんはパート職員として約5年間、ぶらいむ・たいむ向中野校で活躍してくれました。リーダー名は『ありんこ』ですが、皆から『あり〜』と呼ばれているのが印象的です。

本年度より正規職員として入職し、盛南センターの職員として、ぶらいむ・たいむ盛南校の子どもたちや水曜水泳教室に通う子どもたちとともに日々元気一杯に過ごしています。

子どもたち一人ひとりに寄り添いながら、遊ぶ時は共に遊び、伝えなければいけない事がある時は、その子とことん話し合いながら伝えてくれています。そのため、子どもたちとの関係も少しずつ築くことが出来ているように感じます。

そんな菅原さんですが、実は絵を描いたり、画用紙やフェルトを用いた装飾物を作ったりしたら右にでるものがない程の腕前をもっています!向中野校には、菅原さんが作った装飾物がたくさん掲示されており、子どもたちや保護者の方からも大好評!!これからは盛南校でも菅原さん作品が生まれていくことでしょう。乞うご期待下さい☆

また、多くの趣味を持っており、中でも買い物大好きとのこと。他にどんな趣味もっているのかは、是非直接聞いてみてくださいね!

盛南センター長 小川嘉文



リーダー歓迎会

2019年度のリーダー会長を務めることになりました、ビリケンです!さて、リーダー会としての新年度一発目のイベントと言えばピラ配り&新入生歓迎会です!たくさんの新しいボランティアリーダーの獲得を目指し、岩手大学・岩手県立大学・盛岡大学でリーダー募集のピラを配って参りました。(岩手県立大学の入学式でのピラ配りの様子はなんとテレビに取り上げられました。盛岡YMCAのFacabookにアップされているので是非ご覧ください...笑)

新入生歓迎会は内丸教会を会場として、例年1回開催のところ、今年度は対象を分け、2回開催しました。

4月6日(土)に行った盛大生・県大生対象の1回目は、盛岡大学から20人、県立大学から55人という、目標人数の倍近い数の新入生が来てくれました。4月14日(日)は岩手大学から35人の新入生が来てくれました。両日ともに、新入生に盛岡YMCAの雰囲気を経験して欲しいという思いの基に、普段子どもたちと一緒に活動する上で欠かせないプログラム(レクリエーション)を新入生に向けて行いました。

普段よりちょっと大人向けに考えたプログラムで、最初は少し緊張気味だった新入生のみんなも、プログラムが終わるころには笑顔でリーダーたちと打ち解けている様子が見られました。

プログラム終了後は、ワイズメンズクラブの方々にお手伝いいただきました、焼そば・豚汁・もやしのナムルを食べました。出来たての美味しいご飯をありがとうございました!!

4月28日・29日には、新入生と共にテントで1泊するリーダーキャンプを予定しております。リーダーキャンプでも新入生とたくさん関わりたいと思います!

新しいリーダーたちと一緒に子どもたちとの活動に早く行きたいなあと思うビリケンでした~!!!

岩手大学4年 尾河芽生(ビリケンリーダー)



↑県大でのピラ配りの様子



↑ピラ配りで取材された様子



↑4月6日新歓の様子

3月サンデースクール



みなさんこんにちは!!つよぼんです。3月のサンデースクールは、ぶらいむ・たいむ向中野校で凧作りを行いました。当日は気温も暖かく、カラッと晴れた凧揚げ日和でした!

前半はビニール袋を切るところから凧作りをし、それぞれの子が思い思いの絵を描いたり、しっぽや耳をつける子もいたり、オリジナルの凧を完成させました。

その後、グループごとに大きなひとつの凧を協力して作ることに挑戦しました。竹ひごを、セロハンテープで補強する子などそれぞれが役割を見つけ取り組む中、完成したグループから後半の凧揚げの開始です!向中野小学校の校庭に出て、マイ凧飛ばしに夢中になっていました。しかし、飛ばしている途中でテープが剥がれてしまったり、初めから上手く凧が飛ばなかった子もいて、校庭にセロハンテープを持っていき補修をしながら、上手く飛ばせるよう真剣な表情も見られました。

グループの凧を飛ばす時には、グループみんなで集まって交代で飛ばすことも出来ました。上手に作れた子はその場に立ったままでも凧が飛ばようでしたが、少しバランスの悪くなってしまった子の凧が飛ばすために、リーダーも一緒になって一生懸命校庭を駆け回る姿からも、参加した全員が楽しんで活動していたのだということが伝わって来ました。

帰る時には、タコ糸が絡まるハプニングもありましたが、最後まで笑顔で活動することが出来ました。

盛岡大学3年 千葉文彦(つよぼんリーダー)





再び 「よう!そこの若けーの!!」

古本屋にはよく行くがビジネス本ほど、その値下がりの大きなジャンルはない。特に俗に言う「自己啓発本」のたぐいは顕著だ。若い頃はよく好んで買ったものだ。しかし、「これを読んで他者よりも抜きん出てやれ!!」という不純な動機なものだからどれも長続きはしなかった。

そんなこともあって最近では自分の興味の赴くまま自分が読みたい本を買って読んでいます。この度、どういうわけか「ハーバードの人生を変える授業」を買って読んでみた。ハーバード大学でナンバー1の人気を誇る講義を活字で再現したものだ。学歴コンプレックスの塊の僕はこういうタイトルに弱いのである。しかも108円、安い買物だ。ところが、読んでみて驚いた。「これってみんなYのリーダーが4年間で経験することじゃん!!」「感謝する」「思いやりの心を持つ」「他者のいいところを探す」「失敗から学ぶ」などのエピソードがどこかの偉い人の格言とともに紹介されている。

生きる上で絶対に必要な「あたりまえのこと」、かつてはおじいちゃんやおばあちゃんから語って聞かされたようなことを世界最高水準の頭脳をもった学生たちが耳をこらして聞いているのは何故なのだろうか。

見方を変えればアメリカだろうが、岩手だろうが若者は同じような悩みや困難を抱えているということなのだろう。

そうした中、YMCAのリーダーたちは、子どもたちはもちろん、保護者の方々、YMCAの関わるボランティアの方々等、多くの人たちとの出会いの中で、体験を通して目にみえない本当に大切なものを獲得していつているような気がした。手前味噌で言っているのではない。それは70代、80代になっても元リーダー達が全国的に未だに多数つながっているYMCAという組織の歴史の重みのように思える。

「よう!そこの若けーの!!俺の言うこと聞いてくれ?」「Yのリーダーになろうぜ!!」

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。
どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、
神があなたがたに望んでおられることです。

テサロニケ信徒への手紙 第一 5章 16～

盛岡YMCA 総主事 濱塚有史

インドでビリケン・マックスが考えた①

こんにちは!インドで刈り上げた髪の毛もだいぶ伸びてきました、ビリケンです!!!始まりました、「インドでビリケン・マックスも考えた」でございます!インドでの体験を、ビリケンとマックスが交互に登場して、今後、ここに書き記していきたいと思ひます。よろしくお祈りします!1991年に2名のキャンパーから始まったインド・スタディキャンプは、日本YMCA同盟の主催のもと、今回で23回目の開催となります。今回のキャンプは10名から成るキャンプでした。

盛岡YMCAからは、チャブレン(団長)として内丸教会の牧師である中原陽子さん、そしてボランティアリーダーである私ビリケンとマックス、他にも全国の学生YMCAから8名の大学生・大学院生が参加しました。このキャンプでは、南インドの都市部であるバンガロールやチェンナイ、農村部であるカニヤクマリなどを訪れ、南インドが抱える実状を実際に目にすることが出来ました。時系列に沿ってお伝えしていきたいと思ひます。

第一回目は移動編!2月19日、55リットルのバックパックを背負い盛岡を出発しました。翌日の出国に向けての最終準備を行うべく、東京にある在日本韓国YMCAに集合しました。また、過去のキャンパーの方々も来て下さり、壮行会を開いてくださいました。インドでの経験が今に生きているという話や、過去のキャンパーの失敗話など、たくさんのお話を聞かせて下さいました。翌日、2月20日の朝6:30、成田空港に向けて出発。今回は東京・成田空港からマレーシア・クアラルンプール空港を経由して、インド・バンガロール空港へ行くという旅路でした。成田からクアラルンプールまでは、周りの人はほとんど日本人という環境でしたが、クアラルンプールからバンガロールへ向かう飛行機では一変しました。

全員肌の色が黒め!黄色人種である私たちは完全にマイノリティでした。また、機内食も「ベジorノンベジ?(vegetableOR non-vegetable?)」と聞かれるようになりました。「ビーフORチキン?じゃない...もう、カレーであることは前提で、肉食主義者か否かの選択肢になるのね...」と、毎食カレー生活の始まりをここで悟りました。日本時間のAM6:30に出発してから、この時すでに日本時間AM2:30...20時間ずっと移動だった疲れと睡眠に襲われ飛行機内で眠りにつきました。インドの地に降り立つてからの話は次回!!お楽しみに!



↑クアラルンプールからバンガロールまでの飛行機の機内食。毎食カレーの始まり。



↑壮行会後の写真、在日本韓国YMCAにて

表紙の写真から



「ねえー リーダーあっちに行ってみようよ!」「野外活動クラブ・ちきゅうと、あそぼう4月活動」は、「春を探す」がテーマです。手を引っ張られているのは、4年生のトラックリーダー。ベテランのリーダーともなると、子ども達を引率するのではなく、逆に引率されつつも見守っているんですね。

最新情報はこちらでチェックできます!「盛岡YMCA」で検索ください。

ホームページ : <https://www.moriokaymca.org/>

facebook : <https://ja-jp.facebook.com/moriokaymca/>